

ハローキャリアワーク通信

令和7年8月29日
教育総合センター
事業推進担当課



アサヒ飲料株式会社から「自然の恵みから生まれた 100 年ブランド『三ツ矢サイダー』をこれからの 100 年もつなげるために力をかしてくれませんか？」とのオファーを受け、8月28日・29日の両日同内容で行いました。応募者も多く、両日で48名のところ6倍近くの約 300 名の応募をいただきました。両日とも厳しい残暑でしたが、無事終了することができました。

アサヒグ

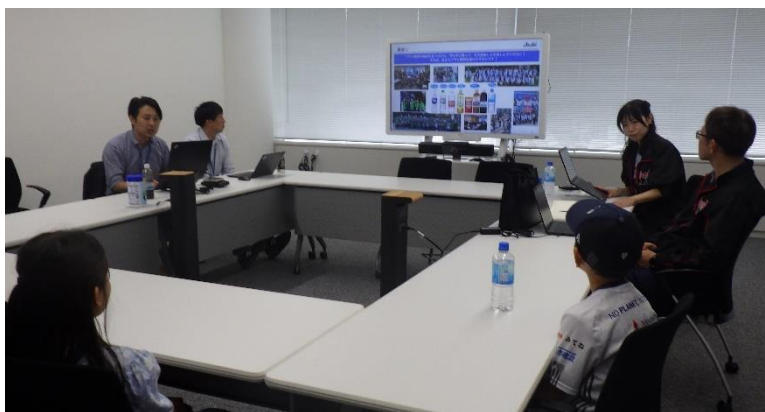
ループカルピス恵比寿ビルのエントランスで参加者は受付をすませ、下の会議室で4つの班に分かれて席に着きました。初めに教育委員会より、熱中症対策などの諸注意があり、アサヒ飲料の担当者の杉様にバトンタッチして開始されました。

杉様からは、本日の流れや館内での諸注意の後、まず、ビル見学を2つのグループに分かれて行われました。初めに A グループは、執務室、会議室、名刺交換、自販機見学、B グループは反対に自販機見学、会議室、執務室、



名刺交換と各階が混雑しないように行われました。執務室は、複数のグループ企業が同じフロアで仕事をされるとのことでした。4つのコーナーにはブースもありましたが、全体がオープンスペースになっており、一人で仕事を行うときに使うそうで、席は決まっていないとのことでした。大きな達磨が置いてあり、子どもから、「なんで青色なんですか」との質問もあり、「会社のカラー」との返事をいただきました。会議室では、それぞれ内容が違い初日は「缶コーヒーブランドワンダの世田谷地域の販売拡大

計画」と称して話が行われており、子どもたちが入室すると「世田谷のスーパーは？」との質問に「〇〇」「△△」と答えていました。その中で、「商品を一番うまく並べてくれるように営業の担当者をお願いに行くんだよ」など話してくださいました。また、次の日は「売上促進販売計画」として、今後、商品の売り上げをどのように伸ばしていくかなど、幹部の皆様が出迎えてくださいました。「どのようにしたら、たくさん買ってもらえるか？」との質問に、ある子どもは「美味しいもの」「安いもの」など、いくつか考えを述べていました。





さり、「設置は無料」とのことでした。最後に、地下の会議室の戻り、名刺交換を行いました。アサヒ飲料の方が参加した一人一人に学校名と名前を印刷した「名刺」と入れ物と用意してくださり、名刺交換の方法を教えてくださいました。その際、名刺の重要性も丁寧に教えてくださいました。「名刺入れを中指と人差し指で挟み、名刺を取り出し、自分の名前を相手側に向け、交換し、頂いた際には『頂戴いたします』と相手に伝える」とのことでした。説明を受けた後で、実際に行うことになり、グ

2階の自販機の見学では、冷やす仕組み、料金の受け取り、電子マネーの仕組みなどを聞いた後、実際に、ボトルを枠の中に入れる体験もさせていただきました。また、二酸化炭素を吸収する仕組みを取り入れた環境配慮型の自動販売機の説明を動画で行ってくださいました。そして、二酸化炭素を吸収する箱が置かれる場所も教えてくださいました。質問も受けてくだ



ープ内で交互に行いました。最後に代表して、アサヒ飲料の幹部の方と名刺交換しました。28日は、1・2班は首都圏本部営業企画部長の鈴木様、3・4班は首都圏本部長の佐藤様 29日は1・2班 首都圏本部流通担当本部長池上様 3・4班は昨日と同じく首都圏本部長の佐藤様でした。名刺交換後「上手にできたね」とお褒めの言葉もいただきました。その後休憩を挟んで、いよいよ『三ツ矢サイダーLABO』の開始です。講師は、28日が佐々木様、29日は細野様で、お二人とも子どもたちを話に引き込もうと名調子で進められました。前半は、『アサヒ飲料』が何をしている会社か？の

説明でした。主に「飲み物」を作っているということで、「生み出す」→「つくる」→「届ける」そして、この流れを支える仕事があるそうです。

具体的に、「生み出す」とは、商品開発の研究とマーケティングで、味や容器の素材、発売の時期、流行の調査などを進めるようです。「つくる」は、材料の調達や工場での安全管理や生産



についてです。「届ける」は、営業でお店に商品を並べてもらうために、商品の説明やアピール、打合せの資料作成や実際に商品を並べるなど行うとのことでした。最後の「支える」は、品質保証として、原材料の品質確認やお客様相談、社員の働く環境整備など幅広く行っているとのことでした。その他の活動として、女子サッカーチームの支援、社会貢献としての『三ツ矢サイダーラボ』も含まれるとのことでした。そして、今回子どもたちに考えてもらう内容に入りました。それは「世



界のみんなが笑顔でくらすために」と称して、SDGsの話になりました。三ツ矢サイダーを題材に「水の大切さと環境について」考えてみることにになりました。SDGsでみると、6番「安全な水とトイレを世界中に」14番「海の豊かさを守ろう」15番「陸の豊かさを守ろう」になるとのことです。日常で使う「水」は、どんな時にどのくらい使っているかを学び、大量の水を使っている現状を知りました。しかし、世界に目を向けると、世界中で約4人に1人（79億人中21億人）しか安心して水を飲むことができない状態とのことでした。そして、休憩を挟んで、SDGs

の6番、14番、15番について、具体的にその重要性が示され、一人一人が日常的に「水や環境を守るために行っていると思うこと」に目を向けるよう話が進められました。付箋紙を使用して、思いついたことを書き出してみました。4つのグループにはアサヒ飲料の社員の芳賀様 仲様 倉持様 岡田様 黒田様 藤倉様 星様が28日についてくださり、29日には、佐藤様 羽鳥様 中村様 藤倉様 黒田様 星様がついて、考えのサポートをしてくださいました。子どもたちの考えの中には、「蛇口を一杯ひねらない」「ごみを捨てない」など、日常の生活が伺える内容もありま



した。その後、三ツ矢サイダーとして現在取り組んでいることとして、ラベルのスリム化、PET樹脂使用量の削減なども教えてくださいました。そして、いよいよ今回のメインテーマの「もし、私がアサヒ飲料の社員なら『水や環境の大切さを伝えるためにどんな仕事をしたいか？どんなものをつくりたいか？』」を個人で考え、グループでまとめる作業に入りました。ワークシートを用意してくださり、これまでの説明を基に各自で考え、グループでまとめることになりました。4つの班ごとにまとめ発表です。1日目では、1班は「それを伝えるた

めのポスターのようなラベルで再利用できるラベルを作りたい」2班は「海をきれいにするために、ごみをためて商品を作りエネルギーにする仕事がしたい。それは、4人に1人でなく4人全員がきれいな水を飲めるようにしたいからです」3班は「キャップの無いペットボトルを開発する、再利用した水とそのペットボトルをポスターで知らせたい」4班は「ラベルを今の半分くらいのサイズにして、商品名と「水を大切に」のキャッチコピーとアレルギーを記入して、ラベルはシール式ではがしやすくして、リサイクルするときの手間を減らす活動がしたい（理由）：ラベルを今の半分くらいのサイズにすることによって、PET樹脂の使用量を減らすことと、シール式にすることによって手間が減り、リサイクルに協力してくれる人が増えると考え、「水を大切に」というキャッチコピーを入れることによって水を大切にすることを覚えてもらえると考えたからです」の4つになり、それぞれ発表しました。2日目の1班は「海を汚さないようにゴミ拾いをして、拾ったゴミでペットボトル作りたい。白い粉



で吸収した二酸化炭素で、たくさんの水を作りたい」2班は「ペットボトルのラベルをなくして、プラスチックリサイクルをする。水を安全に飲めない人たちのことを知っていけるような活動がしたい」3班は「研究をして飲み終わった後に、洋服などに代えることができるペットボトルを作りたい」4班は「再利用してマイクロプラスチックが集められる網を作れるペットボトルと二酸化炭素を吸った木をコーティングして作る水筒」とまとめ、代表者や班全員で発表しました。最後に全員で、今日の活動を祝って、三ツ矢サイダーかカルピスで乾杯をし、集合写真を撮って終了しました。以下当日の様子です。

